

令和6年度 京都市歴史資料館 評議委員会議

日 時 令和7年3月14日（金） 午後3時 開会

会 場 京都教育文化センター 3F 301号

議 題 令和6年度事業報告説明

令和7年度事業計画（案）説明

歴史資料館運営予算について

京都市歴史資料館 評議委員会議 配布資料

資料1 京都市歴史資料館評議委員名簿

資料2 座席表

資料3 京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

資料4 令和6年度 事業報告

参考資料 別紙1 概要

参考資料 別紙2 利用状況

参考資料 別紙3 資料の収集状況

資料5 令和7年度 事業計画（案）

資料6 京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

資料7 令和5年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

京都市歴史資料館評議委員名簿

令和7年3月1日

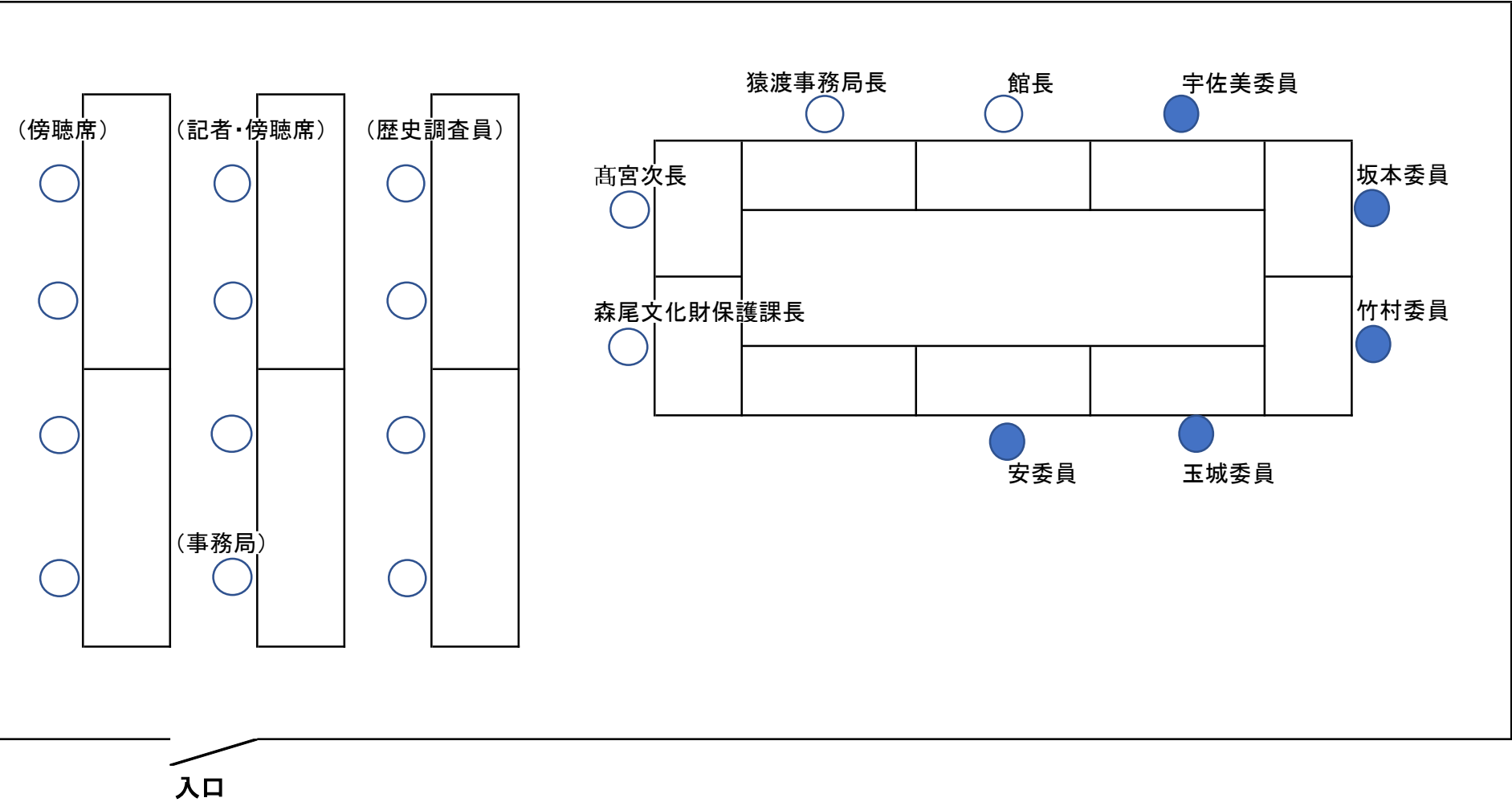
氏 名	役 職 等	専 門 分 野
荒木かおり	川面美術研究所 所長	彩色復元
宇佐美英機	滋賀大学 名誉教授	日本近世史・経営史
片山真理子	東京藝術大学 美術学部附属古美術 研究施設 非常勤講師	美術史
坂本 博司	宇治市歴史資料館 前館長	地域史・食文化史
竹村 佳子	元学校歴史博物館 学芸員	生涯学習・社会教育
玉城 玲子	向日市文化資料館 館長	地域史・中世史
安 裕太郎	市民公募委員	

(敬称略，50音順)

京都市歴史資料館評議委員会議 座席表

日時:令和7年3月14日(金) 午後3時~4時30分

場所:京都教育文化センター 3階 301号



京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

(平成 25 年 1 月 15 日決定)

(令和 3 年 3 月 29 日改正)

(趣旨)

第 1 条 京都市歴史資料館の展示、講座、調査研究その他の業務について、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、京都市歴史資料館評議委員会議（以下「会議」という。）を開催する。

(委員)

第 2 条 歴史資料館長（以下「館長」という。）は、学識経験のある者その他館長が適当と認める者のうちから委員を依頼し、意見を求めるものとする。

2 前項の規定により依頼する委員の人数は、7 人以内とする。

(任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会議の招集)

第 4 条 会議は、館長が招集する。

(庶務)

第 5 条 委員に関する庶務は、歴史資料館で行う。

(補則)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、会議の開催に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成27年3月24日までの間、会議の委員の人数は、第2条第2項の規定にかかわらず、10人とする。
- 3 この要綱の施行の際現に京都市歴史資料館評議員規則に基づく京都市歴史資料館評議員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）に会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における京都市歴史資料館評議員としての任期の残任期間とする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、決定の日から施行する。

1 展示

種 別	テ ー マ	内 容	期 間	入館者数 等	一日平均 ・経 費
特別展	京都と源氏物語 ～受け継がれし 物語～	『源氏物語』が生まれた平安王朝の時代を出土遺物によって再現した。さらに、『源氏物語』の本文だけでなく、研究に基づいた典籍類、物語の世界を具現化し華麗に描いた屏風や、文化的な交流を記した書状から年中行事の摺物まで、後世の京都に遺る『源氏物語』ゆかりの資料を紹介した。 (主な展示品) ・源氏物語車争図屏風 (当館所蔵) ・『源氏物語』写本 (当館所蔵) ・亀岡市篠王子瓦窯出土品 (同志社大学歴史資料館所蔵) ・平安京右京三条一坊六町「西三条第 (藤原良相邸)」出土品 (京都市所蔵) ・中務省跡、右京職跡、冷泉院跡、西市外町および隣接地出土品 (京都市埋蔵文化財研究所所蔵)	4. 3～6. 23 (71 日間) ギャラリートーク 4. 17 ギャラリートーク 5. 19 ギャラリートーク 6. 12 歴史講座 5. 22 特別講演会 6. 2	・目標入場者数 7,100 人 (1 日平均約 100 人) →7,288 人 19 人 25 人 41 人 31 人 47 人 【目録販売数】 500 部	102.6 人 275,000 円 【収入】 150,000 円
特別展	京に生きる町衆 下村忠兵衛と 祇園祭	文化庁の「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の国庫補助を受けて実施した京都市内個人所有古文書調査事業(「下村家文書」「熊谷家文書」調査)の成果に基づく展示企画第1弾として、京都の呉服商「奈良屋」下村忠兵衛が保管していた古文書を中心に、「下古京三町組」の関係文書などから、町代改義一件や祇園祭を支えてきた京の町衆の文化と歴史を紹介した。 (主な展示品) 1 「下村家文書」から ・町代改義一件証文巻 文政元年(1818) — 町衆の自治をめぐる争訟の記録 ・古街録 2 [特別出陳] 祇園祭長刀鉾関係資料 (公益財団法人長刀鉾保存会所蔵) ・鉾からみ指図 文化 10 年(1813)6 月 ・長刀鉾真木之図 天保 10 年(1839)6 月 ・賀茂季鷹狂歌 (町代改義勝訴祝賀歌付序) 文政 2 年(1819)	6. 29～9. 1 (56 日間) ギャラリートーク 7. 20 ギャラリートーク 8. 20 講演会 7. 31	・目標入場者数 5,600 人 (1 日平均約 100 人) →4,054 人 26 人 24 人 22 人 【目録販売数】 182 部	72.4 人 261,140 円 【収入】 54,600 円
特別展	文人墨客 鳩居堂の幕末 明治	文化庁「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の国庫補助を受けて実施した京都市内個人所有古文書調査事業の成果に基づく展示企画第2弾として、「熊谷家文書」を中心に、鳩居堂に伝わる資料から、幕末の激動の京都で救済事業に尽力した香具屋久右衛門や、京都の文人たちの足跡を、幕末から明治時代の当時の資料から紹介した。 (主な展示品) ・熊谷家文書から「諸家用筆図譜」「製筆秘伝」 ・天保飢饉に際しての救済の記録「救小屋同志 施行人名前帳」 ・富岡鉄斎ほか「蓮心翁祝寿合作巻」 安政 5 年(1858)	9. 7～10. 13 (32 日間) ギャラリートーク 9. 20 ギャラリートーク 10. 12 講演会 10. 9	・目標入場者数 3,200 人 (1 日平均約 100 人) →3,254 人 12 人 30 人 18 人 【目録販売数】 121 部	101.7 人 257,840 円 【収入】 36,300 円

特別展	賀茂季鷹と古典の「知」－京都市歴史資料館寄託山本家資料展－	賀茂季鷹は賀茂別雷神社（上賀茂神社）の神職で、江戸時代後期を代表する歌人である。本展示では、季鷹を中心とした、江戸の〈知（インテリジェンス）〉の実相とその豊かさを紹介した。 ※当館は、季鷹の関係典籍類の寄託を受けていることから、令和4年度より国文学研究資料館の共同研究に参加しており、本展示は、その研究成果を反映したものである。 （主な展示品） ・清輔本古今和歌集（重要文化財） ・源氏物語系図（京都市指定文化財） ・季鷹肖像（模本）	10. 19～11. 24 （30 日間） ギャラリートーク11. 2 ギャラリートーク11. 8 ギャラリートーク11. 17 セミナー 10. 19 特別講座 10. 26 特別講演会 11. 8	・目標入場者数 3, 000 人 (1 日平均約 100 人) → 2, 750 人 4 人 90 人 28 人 124 人 66 人 440 人 【目録販売数】 無料配布	91. 7 人 79, 090 円
特別展	二条離宮－元離宮二条城 本丸御殿公開記念－	平成29年度より本格修理が行われてきた本丸御殿の公開を記念して、従来あまり知られていなかった二条城から二条離宮、そして京都市に下賜されて元離宮二条城となったその歴史を、当時の資料をもって紹介した。 令和2年度に京都市歴史的公文書に指定された元離宮二条城事務所文書を併せて紹介した。 （主な展示品） ・「二之丸御殿白書院 鬼瓦」（江戸時代／元離宮二条城事務所所蔵） ・「二之丸御殿大広間 菊紋装飾」（明治時代／元離宮二条城事務所所蔵） ・「二条城 西南隅櫓鯨瓦」（江戸時代／元離宮二条城事務所所蔵） ・「二条御城二之丸御殿向并仮建物絵図」（文久2年／元離宮二条城事務所所蔵）	11. 30～2. 22 （65 日間） ギャラリートーク12. 25 ギャラリートーク 1. 26 ギャラリートーク 2. 18 講演会 12. 20	・目標入場者数 6, 500 人 (1 日平均約 100 人) → 5, 696 人 68 人 51 人 56 人 115 人 【目録販売数】 279 部	87. 6 人 242, 990 円 【収入】 83, 700 円
テーマ展	京歴的京都案内－館蔵品をひもとけば3－	当館では、これまでも幾度か館蔵品展を開催して、これらの貴重な資料を紹介してきた。今回は「京歴的京都案内」と題して、有名であったり、派手な名所ではないが、あまりよく知られていない「京都」の一面を探ることのできる資料を中心に紹介する。 （主な展示品） ・「京都大火絵図」（宝永5年） ・「六条御殿鑑札」（安政2年） ・「魚問屋引札下書」（明治） ・「映画パンフレット」（昭和13年頃）	3. 8～6. 8 （76 日間） ギャラリートーク 3. 27 ギャラリートーク 4. 24 ギャラリートーク 5. 18	・目標入場者数 7, 600 人 (1 日平均約 100 人) → 二 人 一人 一人 一人 【目録販売数】 一部	一人 96, 140 円
第2展示室	黒川翠山 京都を撮る－古写真の世界－	明治から昭和に活動した京都出身の写真家・黒川翠山が撮影したガラス乾板について、令和5年度の文化庁の補助金を活用して、デジタル化を行った。その成果報告としてパネル展示を実施した。	5. 16～10. 13 （120 日間）	－	－

第2 展示室	国文学研究資料館の紹介	特別展「賀茂季鷹と古典の「知」ー京都市歴史資料館寄託山本家資料展ー」の開催にあわせて、共同研究に参加した国文学研究資料館の活動を映像で紹介し、「和書のさまざま」をパネルで展示した。	10.19～11.24 (30日間)	—	—
第2 展示室	古写真で振り返る二条離宮	特別展「二条離宮ー元離宮二条城 本丸御殿公開記念ー」の開催にあわせて、関連する古写真をパネルで展示した。	11.30～2.19 (62日間)	—	—
第2 展示室	京都府立鴨沂高校の特設展示：本校が所蔵する明治時代の西洋画の作者について	京都府立鴨沂高校は、同校が所蔵する文化財のうち、明治初期の西洋画を素材に、生徒による「京都文化探究」に取り組んだ。その成果をパネルにし、西洋画作品とともに展示し、生徒による解説を行った。	2.20 (1日間)	—	—

(参考) 会期中、原則毎月1回ギャラリートーク(概ね1時間)を行っている。

2 講座等

講 座 名	テーマ・内容	開催月 日	会場	講師	受講者数 ・経 費
歴史講座・講演会 ※「京都と源氏物語 ー受け継がれし物語 ー」展示関連	京都と源氏物語ー受け継がれし物語ー ○参加費：無料	5.22	歴史資料館 展示室	吉住	31人 0円
	紫式部とその時代ー『源氏物語』の背後世界 ○参加費：1,000円	6.2	職員会館 かもがわ	井上 館長	47人 11,000円 【収入】 47,000円
連続講座 「古文書を楽しく 読もう！」	A組：古文書入門 B組：久多荘関係文書を読む ○参加費：4,000円	春期 5.22～ 毎水4回	職員会館 かもがわ	尾下 野地	28人 45人 68,000円 【収入】 292千円
A組：初級編 13時30分～ B組：中級編 15時30分～	A組：古文書入門 B組：江戸時代の『源氏物語』関連史料を読む ○参加費：4,000円	秋期 10.30～ 毎水4回	京都教育文化 センター	井上 吉住	32人 41人 80,080円 【収入】 292千円
連続講座 「古文書で読み解 く京都の歴史」	I組：門跡寺院の古文書を読む II組：『甲子戦争記』を読む ○参加費：4,000円	冬期 1.31～ 毎金4回	京都教育文 化センター	宇野 松中	32人 17人 80,080円 【収入】 196千円
講演会 ※「京に生きる町 衆 下村忠兵衛と 祇園祭」展示関連	町衆の記録をひらくー古街録と下村忠兵衛 講師：平野 寿則(大谷大学文学部歴史学科教授) ○参加費：1,000円	7.31	歴史資料館 展示室	左記	22人 0円 【収入】 22,000円
子ども向けワーク ショップ	「自分の花押を作ろう！」 ○参加費：500円	8.11	歴史資料館 展示室	野地 井上	41人 0円 【収入】 20,500円
講演会 ※「文人墨客 鳩 居堂の幕末明治」 展示関連	文人墨客、「内憂外患」の時代を生きて 講師：小林 丈広(同志社大学教授) ○参加費：1,000円	10.9	歴史資料館 展示室	左記	18人 0円 【収入】 18,000円

講演会 ※国文学研究資料館との連携展示	藤原道長家の人々と源氏物語 講師：中西 智子（国文学研究資料館准教授） ○参加費：無料	11. 8	京都アスニー	左記	440 人 0 円
講演会 ※「二条離宮－元離宮二条城 本丸御殿公開記念－」展示関連	二条城から二条離宮への軌跡 講師：今江 秀史（元離宮二条城事務所 文化財保護技師） 降矢 淳子（元離宮二条城事務所 学芸員） 秋元 せき（京都市歴史資料館 歴史調査員） ○参加費：無料	12. 20	中京区役所 会議室	左記	115 人 0 円
歴史講座 「歴史学び舎（まなびや）プロジェクト」プレ講座	市民のいるマチの成立 －「京都」はいつ京都になったのか－	1. 30	みやこめっせ	井上 館長	81 人 0 円
ギャラリートーク	「京都と源氏物語～受け継がれし物語～」展示関連	4. 17 5. 19 6. 12	歴史資料館	吉住	19 人 25 人 41 人
	「京に生きる町衆 下村忠兵衛と祇園祭」展示関連	7. 20 8. 20	歴史資料館	秋元	26 人 24 人
	「文人墨客 鳩居堂の幕末明治」展示関連	9. 20 10. 12	歴史資料館	秋元	12 人 30 人
	「賀茂季鷹と古典の「知」－京都市歴史資料館寄託山本家資料展－」展示関連	11. 2 11. 8 11. 17	歴史資料館	松中	4 人 90 人 28 人
	「二条離宮－元離宮二条城 本丸御殿公開記念－」展示関連	12. 25 1. 26 2. 18	歴史資料館	秋元	68 人 51 人 56 人
	「京歴的京都案内－館蔵品をひもとけば3－」	3. 27 4. 24 5. 18	歴史資料館	野地	－人 －人 －人

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講 座 名	テーマ・内容	期日	会 場	講師	受講者数
平安京創生館 ボランティア養成講座	平安京の光景をさぐる	6. 8	京都アスニー	井上	50 人
賀茂社家古典籍セミナー	特別展「賀茂季鷹と古典の「知」」の見どころ	10. 19	京都産業大学 むすびわざ館	松中	124 人
アスニー京都学講座	賀茂季鷹に見る、江戸の〈知〉のかたち	10. 26	京都アスニー	松中	66 人
梅逕学区ふれあいセミナー	地図で見くらべる地域の歴史	2. 2	元梅逕中学校	井上	35 人

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集について、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行いました。

(1)収蔵品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する」ことにあります。開館以来、館蔵品・寄託品の受入を行ってきましたが、資料の数が膨大となり、その内容を十分に把握できていないものもあるため、令和6年度においても、引き続き、収蔵品台帳・目録（画像データも含む。）の再整備を重点的に進めました。

目録作成の過程で重要性が判明した資料については、市の指定文化財の候補として文化財保護課とも情報共有をはかり、長く保存・活用できるようにします。専門的な調査・研究を必要とする資料については、大学等と共同研究を行います。また目録作成とともに資料のデジタル撮影を進めます。将来的には、作成した目録や資料のデジタル画像を、ホームページ等で容易に検索・閲覧できるようにして、市民や研究者等が活用できる環境を整えていくことを目指します。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

(2)京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺・金蔵寺調査

資料調査に協力しました。

【秋元、野地】

(3)国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

令和4年度から3ヵ年の予定で実施される国文学研究資料館の研究会に参加し、山本家典籍（京都市指定文化財）など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する共同研究を行いました。今年度開催した特別展「賀茂季鷹と古典の「知」ー京都市歴史資料館寄託山本家資料展ー」は、その研究成果を反映したものです。

また、国文学研究資料館が、山本家典籍（京都市指定文化財）をデータベース化するため、画像データの作成を行っています（諸費用は国文学研究資料館が負担。）。

【松中】

(4)大谷大学による今江家文書調査

昨年度に所蔵者より寄贈を受け、当館において資料の整理作業を行いました。引き続き、大谷大学と連携しながら、市指定文化財に向けた調査を進めます。

【松中、文化財保護課】

(5)東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、「財団法人岩倉公旧跡保存会」から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料のデジタル撮影を行いました。

令和6年5月28日～6月12日 撮影（光楽堂）

令和6年12月3日～20日 撮影（光楽堂）

【松中】

(6)八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、令和6年度分52点の修理を行いました。読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金を受けています。

【松中】

(7)東京大学史料編纂所による上賀茂社家の資料調査

東京大学史料編纂所において、当館寄託の岩佐家文書の調査を進めています。

【松中】

5 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、令和5年が設立100周年に当たる関係で、令和2年度から6年度の5ヵ年事業として、近代の祇園祭関係の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌の刊行を予定しています。

当館は、本事業に協力する立場で、山鉾町関係資料や八坂神社関係資料などの調査を行いました。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

6 Innovate MUSEUM事業(旧「地域と共働した博物館創造活動支援事業」)

(京都の複数の歴史文化施設がクラスターを形成し、多様な事業を展開)

令和5年4月に施行された改正博物館法の趣旨を体现するため、博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信や、博物館における業務のDXに効果的に取り組む事業を支援する文化庁の補助事業を活用した「京都歴史文化施設クラスター実行委員会」に参画しています。

今年度は、京都の郷土史家である田中緑紅の日記54冊をデジタル撮影し、目録の作成を行いました。

【野地、松中】

7 資料館外貸出

他の博物館や美術館から、当館の館蔵及び寄託資料の貸出出陳の依頼に対して、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行いました。

【井上、尾下】

8 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用の希望に対して、特別利用や掲載許可の申請手続や画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行いました。

—特別利用の申請—

- (1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。
- (2) 上記(1)で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。
- (3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

- (4) 出版物に図版として写真を掲載する(電子書籍版も含む)。

※歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、従前は使用目的を問わず、無料で提供していましたが、出版物等の商業目的については利用者に一定の利益が見込まれることから、令和3年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき、画像貸出に係る経費を負担願っています。

【井上、尾下】

9 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧希望に対して、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行いました。

- (1) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (2) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。
- (3) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【井上、尾下】

10 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査を行いました。

(参考) 指定件数1792件(令和6年3月31日現在)

市参事会文書156件、編入市町村引継文書573件、

総合企画局国際化推進室文書511件、総合企画局総合政策室文書286件、

元離宮二条城事務所文書51件、その他215件

【秋元】

11 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めました。また市民の方からの歴史に関する相談に対応しました（参考資料 別紙2 参照）。

【歴史調査員】

12 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内における歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行いました。

【井上】

13 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施しました。

令和6年8月22日～26日 京女・京都橘・同志社・大谷 計7人

【松中】

14 収蔵環境の向上

収蔵庫の環境を適切に保つため、引き続き IPM メンテナンス等を実施しました。

令和7年2月26日、27日 特別収蔵庫・第1収蔵庫・荷解室

また、地方独立行政法人京都市産業技術研究所との間で、文化財の保護や修復、適切な保存及び収蔵環境の実現等に関する連携協定を締結し（令和3年5月28日）、収蔵環境調査を定期的実施しています。

15 広報活動・情報発信の強化

令和6年度も、ホームページ、Facebook、X（旧 Twitter）を利用し、情報発信の充実・強化に努めました。

○ デジタルアーカイブの取組

国文学研究資料館の HP において山本家典籍を公開

国の文化遺産オンラインの HP において黒川翠山のガラス乾板を公開

○ Facebook、X（旧 Twitter）

中島莊陽「京の街頭風俗」の画帖をシリーズ化して紹介

その他、展示情報やイベントの案内、及び歴史調査員の日頃の研究活動などを掲載

京都市歴史資料館の概要

	京都市歴史資料館（昭和57年10月 設立）
事業 内容	京都市域の古文書を中心とした歴史資料の収集・保存・調査・研究・公開
収 集 資 料	・一次資料（古文書）：約198,315点 ・写真複写（古文書）：約2,135,700コマ ※2年度～デジタル化（目録）：28,357点 （写真）：17,782枚 ・マイクロフィルム（新聞）：約1,300,000コマ ・歴史一般図書：30,731冊 ・美術工芸品、民俗資料：約210点
調査 研究 事業	・史料叢書の出版 ・研究紀要の発行
公 開 事 業	・特別展示、テーマ展示、企画展示 ・DVD映像 ・市民対象の各種講座 ・図書、資料の閲覧 ・歴史相談 ・情報システム「フィールドミュージアム京都」発信
特 徴	・「京都市政史」及び「叢書 京都の史料」編さん等を通して、積極的に資料収集を行ってきたが、その中心となるのは文献資料である。 ・公文書館ではない。 ・調査・研究を積極的に行っている。
施設 状況	・ 地上2階・地下1階 ・ 敷地面積 1,183 m² ・ 延床面積 2,016 m²

（令和6年3月31日現在）

歴史資料館の利用状況について

年度	年度合計			土日関係			閲覧件数			相談件数			
	入館者数	開館日数	1日当り	入館者数	開館日数	1日当り	件数	図書	古文書	件数	電話	来館	郵便
29	20,096	285	71	8,764	99	89	1,200	871	329	710	392	303	15
30	18,730	283	66	8,028	96	84	1,201	893	308	623	338	277	8
元	26,339	280	94	10,373	94	110	1,178	775	403	568	272	282	14
2	18,897	252	75	7,305	87	84	748	481	267	501	307	173	21
3	26,786	229	117	11,871	79	150	686	426	260	396	263	121	12
4	20,077	261	77	7,754	96	81	795	445	350	412	230	172	10
5	17,164	216	79	7,115	77	92	665	379	286	477	278	187	12
5 (4～1月)	17,158	211	81	7,115	77	92	661	379	282	436	240	185	11
6 (4～1月)	21,387	231	93	8,352	77	108	747	441	306	402	230	159	13

【参考】前年度比(4～1月)数値比較(6年度／5年度)

○ 入館者数 ⇒ 24.6 %増

○ 土日入館者数 ⇒ 17.4 %増

○ 閲覧件数 ⇒ 13.0 %増

○ 相談件数 ⇒ 7.8 %減

歴史資料館ホームページアクセス数

年度	トップページ	1日当たり
29	69,874	191
30	83,314	228
元	99,021	271
2	64,487	177
3	48,055	132
4	11,024	30
5	45,552	125
5 (4～1月)	30,005	98
6 (4～1月)	104,916	345

【参考】前年度比(4～1月)数値比較(6年度／5年度) …249.7 %増

※4年度は文化市民局全体で77.6%減

京都市情報館ホームページ作成支援システムアクセスカウント数

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
令和2年度は、4月7日～5月17日の32日間を閉館。
令和3年度は、4月25日～5月31日の28日間と
8月20日～9月30日の37日間の計65日間を閉館。
※館内設備メンテナンス(空調機器、照明LED化)のため、
令和5年は、12月26日～4月2日の74日間を閉館。

資料の収集状況について

1 館蔵資料の受入れ状況

(受入れ件数は、R6.3.31 現在)

	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	総 数
一次資料（古文書）	－ ※1	約 2,500	約 6,450	約 2,865	約 198,315 点
写真複写（古文書）	－	－	－	－	約 2,135,700 コマ
2 年度～デジタル化 ※2					
目録	1,708	6,431	7,012	13,206	約 28,357 点
写真	8,633	1,084	7,020	1,045	約 17,782 枚
マイクロフィルム・ デジタルデータ（新聞）	約 20,000	約 20,000	約 20,000	約 20,000	約 1,300,000 コマ
図 書	約 260	約 260	258	約 300	30,731 冊
美術工芸品等	絵画，屏風，秤，枅，町旗，籠，消火器，つづら，祭具等 約 210 点				

※1 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、鑑定評価委員会が開催できなかったため、一次資料（古文書）等の受入れは無い。

※2 古文書等のデジタル化は、館所蔵のうち、重要資料やデジタルデータの活用が見込まれるものから重点的に実施している。

2 収蔵資料文化財指定の状況

	件数	点数	内 訳
重要文化財	5 件	3,900 点	兵庫北関入船納帳 1 冊 福井家旧蔵京枅座関係資料 2,139 点 八瀬童子関係資料 741 点 岩倉具視関係資料 1,018 点 古今和歌集 下 1 冊
市指定・登録文化財	25 件	13,201 点	岩倉具視関係資料 109 点 賀茂季鷹関係典籍類 1,268 点 京都市参事会文書 158 点 等

3 寄付受納物件（過去 5 年間）

年 度	品 名	数 量	寄 贈 者
平成 30 年度	古文書	1 点	鹿谷 逸郎
	古文書	2 点	中井 博一
	古文書	約 50 点	大嶋 正博
	古文書・書画・版本	40 点	福田 叡子
	図面・書類など	約 260 点	間野 嘉津子
	鉢巻・地図	5 点	藤野 正弘
	和菓子関係道具類	118 点	杉谷 禎治
	版本・洋装本・写本	924 点	西山 洋
	額	2 点	大岡 千鶴子
令和元年度	絵葉書集など	8 点	文寿 誠二
	胸像	1 点	大野 茂
	写真など	140 点	山根 渉
	図書	1 点	山添 敏文
	古文書・装束など	約 60 点	小西 弘泰
	絵図	1 点	田中 良夫
	絵葉書	10 点	中野 繁成
	地藏盆飾り・祠	一式・1 棟	下高倉町
	地藏盆前掛など	4 点	本能寺町
	陣笠・肖像・書状など	約 50 点	後藤 欣哉
	古文書	165 点	門田 邦代
	古文書など	154 点	福屋町内会
	カメラ・レンズ・ アルバム	7 点	塩見 昌平
令和 2 年度	—	—	—
令和 3 年度	古文書など	9 点	矢野 昭子
	古文書・絵図	約 4 8 0 点	上田 寿一
	古文書など	約 2 0 0 点	佐竹 泰子
	絵図	1 舗	小野 恵美子
	額	2 面	泉 信之
	香合	1 合	北川 弘子
	版本・古文書・短冊など	6 2 点	小石原 頼子
	絵葉書・写真など	約 1 1 0 0 点	石原 ゆう子
	絵図・古文書など	約 2 2 0 点	山下 久恵
	絵図・図面・古文書など	5 3 点	荒川 朋彦
	古文書、看板	3 点	梅原 容子
	古文書など	1 5 9 点	高原 北雄
	写真	1 点	遠山 雅夫

	写真	217点	吉田 泰子
	絵図など	4点	福田 叡子
	屏風	1双	岡本 昌也
令和4年度	古文書など・掛幅・龍吐水	約1530点・21幅・1点	奥田 尚子
	音声資料カセットテープ	10点	西川 祐子
	写真・辞令など	約450点	渡辺 昇
	賞状・感謝状など	約200点	小川 壽子
	図面など	28点	大野 義男
	古文書など・掛幅	4100点・20幅	棕本 正江
	図書	2冊	岩崎 眞
	絵葉書など	25点	水戸 信一
	地図	1点	渡部 眞一
	写真など	30点	木村 敦子
	古文書など	25点	松本 一男
令和5年度	古文書など	175点	長谷川 吉太郎
	古文書	281点	藤ノ井 日向
	写真など	13点	藤田 准司
	地図・リーフレットなど	19点	中嶋 淑子
	日記など	54点	田中 喜代
	古文書など	約400点	平野 徑子
	古文書など	157点	山本 あや子
	古文書・図面・看板など	258点	田村 英郎
	写真アルバムなど	8点	新井 健
	古文書・典籍類・掛幅・器物・甲冑など	約1500点	今江 康弘

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために鑑定評価委員会を開催できなかったため、寄付受納物件は無い。

令和 7 年度事業計画（案）

1 展示

種 別	テ ー マ	内 容	期 間	目 標 入 場 者 数
テーマ展	京歴的京都案内 館蔵品をひもとけば 3	当館では、これまでも幾度か館蔵品展を開催して、これらの貴重な資料を紹介してきた。今回は「京歴的京都案内」と題して、有名であったり、派手な名所ではないが、あまりよく知られていない「京都」の一面を探ることのできる資料を中心に紹介する。 （主な展示品） ・「京都大火絵図」（宝永 5 年） ・「六条御殿鑑札」（安政 2 年） ・「魚問屋引札下書」（明治） ・「映画パンフレット」（昭和 13 年頃）	3. 8～6. 8 (75 日間)	・ 目標入場者数 7, 500 人 (1 日平均約 100 人)
特別展	つながる祇園祭(仮題)	祇園祭は、いくつもの歴史的変遷を重ねているが、特に近代以降の大きな変化が現在の祇園祭のあり方に大きく関わっている。本展示では、京都市歴史資料館も参加した「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業で調査された資料や館蔵品を中心に、今につながる祇園祭のあゆみを紹介する。	6. 14～8. 10 (50 日間)	・ 目標入場者数 5, 000 人 (1 日平均約 100 人)
企画展	19 世紀京都の地域情報(仮題)	18 世紀後半に『都名所図会』が刊行される。名所図会は実際の風景を鳥瞰図で描き、わかりやすく解説を加えたもので、地域情報を紹介する書物として画期的なものである。さらに 19 世紀になると京都では、観光・商業など様々な分野で情報発信が拡大する。明治になり、鉄道や疏水など近代的な施設が建設されたり博覧会が開催されると、西洋からの印刷技術も用いながら、そうした情報が広く伝えられた。本展示では書物・絵図・地図などの出版物を通して、地域に関するどのような情報が 19 世紀の京都で発信されていたのかを紹介する。	8. 16～11. 9 (73 日間)	・ 目標入場者数 7, 300 人 (1 日平均約 100 人)
企画展	湯本文彦と京都の近代(仮題)	湯本文彦は鳥取藩士の家に生まれ、明治 21 年（1888）から京都府の官吏として歴史調査に従事してきた。明治 28 年に挙行された平安遷都千百年記念祭では、数々の企画に携わり、『平安通志』の編纂・刊行に尽力した。その後も府の事業「京都府寺誌稿」の編纂のため、府内各寺院を調査している。本展示では、歴史家湯本文彦が近代京都において果たした役割を紹介する。当館では湯本のご子孫から所蔵資料の寄贈を受けている。	11. 15～2. 1 (60 日間)	・ 目標入場者数 6, 000 人 (1 日平均約 100 人)

2 講座等

講 座 名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師
連続講座 「古文書を楽しく読もう！」	春期連続講座 A組（初級編）13時30分 B組（中級編）15時30分	5.14、5.21 5.28、6.4	京都教育文化センター	尾下秋元
	秋期連続講座 A組（初級編）13時30分 B組（中級編）15時30分	未定	-	-
歴史講座	「つながる祇園祭」関連	6月下旬	-	-
歴史講座	「湯本文彦と京都の近代」関連	12月中旬	-	-

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講 座 名	テーマ・内容	開催月日	会 場	講師
アスニー特別講演会	未定	-	京都アスニー	-
アスニー京都学講座	「19世紀京都の地域情報」 関連	10.25	京都アスニー	松中

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集について、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行います。

(1)収藏品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する」ことにあります。開館以来、館藏品・寄託品の受入を行ってきましたが、資料の数が膨大となり、その内容を十分に把握できていないものもあるため、令和7年度においても、引き続き、収藏品台帳・目録（画像データも含む。）の再整備を重点的に進める取組を実施します。

目録作成の過程で重要性が判明した資料については、市の指定文化財の候補として文化財保護課とも情報共有をはかり、長く保存・活用できるようにします。専門的な調査・研究を必要とする資料については、大学等と共同研究を行います。また目録作成とともに資料のデジタル撮影を進めます。将来的には、作成した目録や資料のデジタル画像を、ホームページ等で容易に検索・閲覧できるようにして、市民や研究者等が活用できる環境を整えていくことを目指します。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

(2)京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺・金蔵寺調査

引き続き資料調査に協力します。

【秋元、野地】

(3)国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

国文学研究資料館が、山本家典籍（京都市指定文化財）をデータベース化するため、画像データの作成を行います（諸費用は国文学研究資料館が負担。）。

【松中】

(4)大谷大学による今江家文書調査

令和5年度に寄贈された今江家文書について、引き続き大谷大学と連携しながら、市指定文化財に向けた調査を進めます。

【松中、文化財保護課】

(5)東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、「財団法人岩倉公旧跡保存会」から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料のデジタル撮影を行います。

【松中】

(6)八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、令和7年度分の修理を行います。読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金を受けています。

【松中】

(7)東京大学史料編纂所による上賀茂社家の資料調査

東京大学史料編纂所において、当館寄託の岩佐家文書のデジタル撮影を行います。

【松中】

5 「叢書 京都の史料」の再版

平成23年度刊行の「禁裏御倉職立入家文書」を再販します。

【野地】

6 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、令和5年が設立100周年に当たる関係で、令和2年度から6年度の5カ年事業として、近代の祇園祭関係の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌の刊行を予定しています。

当館は、山鉾町関連資料や八坂神社関連資料の調査関連の範囲で、記念誌の刊行に協力します。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

7 資料館外貸出

他の博物館や美術館での展覧会に、当館の館蔵及び寄託資料を貸し出し出陳する依頼があった場合、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行います。

【井上、尾下】

8 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用を希望される場合、特別利用や掲載許可の申請手続や画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行います。

—特別利用の申請—

(1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。

(2) 上記(1)で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。

(3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

(4) 出版物に図版として写真を掲載する（電子書籍版も含む）。

※歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、従前は使用目的を問わず、無料で提供していましたが、出版物等の商業目的については利用者に一定の利益が見込まれることから、令和３年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき、画像貸出に係る経費を負担願っています。

【井上、尾下】

9 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧を希望される場合、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行います。

- (１) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (２) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。
- (３) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【井上、尾下】

10 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査を行います。

＊（参考）指定件数 1792 件（令和 6 年 3 月 31 日現在）

市参事会文書 156 件、編入市町村引継文書 573 件、
総合企画局国際化推進室文書 511 件、総合企画局総合政策室文書 286 件、
元離宮二条城事務所文書 51 件、その他 215 件

【秋元】

11 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応します（参考資料 別紙 2 参照）。

【歴史調査員】

12 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内における歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行います。

【井上】

13 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施します。

令和 7 年 8 月 26 日～30 日 京女・京都橘・同志社・大谷

【秋元】

14 収蔵環境の向上

収蔵庫の環境を適切に保つため、引き続き IPM メンテナンス等を行います。

また地方独立行政法人京都市産業技術研究所との間で、文化財の保護や修復、適切な保存及び収蔵環境の実現等に関する連携協定を締結し（令和 3 年 5 月 28 日）、収蔵環境調査を定期的に実施しています。

15 広報活動・情報発信の強化

令和 7 年度も引き続き、ホームページ、Facebook、X（旧 Twitter）を利用し、情報発信の充実・強化に努めます。

京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

〔歳 入〕

(単位：千円)

		7 年度 (案)		6 年度		5 年度		4 年度		3 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
消費枠	刊行書籍販売	1,702	-	702	-	1,702	300	702	539	1,702	892
	資料コピー料金	300	-	300	-	300	166	300	302	300	180
	古文書講座受講料	1,080	-	1,080	-	1,080	764	768	628	768	324
	補助金等	-	-	-	-	-	-	1,000	1,000	1,000	1,000
		-		-		-		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業	
	画像利用料	960	-	800	-	640	696	480	788	316	572
	展示解説書	420	-	420	-	420	103	430	217	-	-
	博物館実習, 有料講演会	100	-	100	-	100	138	-	-	-	-
	寄附金、基金運用収入	51	-	50	-	50	39	50	34	0	157
投資枠	市債・行政改革推進債	-	-	-	-	24,000	20,000	17,000	11,000	-	-
		-		-		空調設備更新事業／照明設備のLED化		特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-	
計		4,613	-	3,452	-	50,498	22,206	20,730	14,508	4,086	3,125

〔歳 出〕

		7 年度 (案)		6 年度		5 年度		4 年度		3 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
消費枠	歴史資料館管理運営	19,235	-	18,318	-	19,182	16,336	14,029	11,933	13,987	13,376
	その他	-	-	-	-	-	-	2,050	1,992	2,050	2,034
		-		-		-		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業	
		1,000	-	-	-	1,000	1,000	-	-	1,000	500
	資料叢書編さん	-		-		資料叢書編さん		-		資料叢書編さん	
		3,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	所蔵資料保存事業	-		-		-		-		-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		51	-	50	-	50	39	50	34	-	-
	文化芸術振興基金積立金	文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		-	
		-		-		-		-		-	
投資枠	歴史資料館整備	7,000	-	-	-	27,990	22,619	17,970	12,767	-	-
		文化財総合的有害生物管理（文化財IPM）		-		空調設備更新事業／照明設備のLED化		特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-	
計		30,286	-	18,368	-	48,222	39,994	34,099	26,726	17,037	15,910

※文化市民総務費を除く

資料 7

令和 5 年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

1 日時 令和 6 年 3 月 2 6 日（火）午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分

2 会場 職員会館かもがわ 2 階 大会議室

3 出席者

評議委員…荒木かおり、片山真理子、坂本博司、竹村佳子、玉城玲子、安裕太郎

京都市…文化市民局文化芸術推進室：山口担当部長（事務局長）

文化財保護課：牧山課長、安井美術工芸・民俗文化財係長

歴史資料館：井上館長、高宮次長、秋元、松中、尾下、井上、野地、島田

4 欠席者 評議委員 宇佐美英機

5 傍聴者 なし

6 議事運営

（1）開会

京都市市民参加推進条例第 7 条により、本会議及び議事録等について公開することを説明。

（2）開会あいさつ

（3）出席委員・出席者の紹介、配付資料の説明

（4）令和 5 年度事業報告説明（資料 4 参照）、質疑

【評議委員】

TOPPAN の古文書解読スマホアプリについて、もう少し詳しく教えていただきたい。

【京都市】

TOPPAN 印刷において、まず和本、典籍類の解読を先行的に進め、それに引き続いて、近世のくずし字で書かれたものに対して、どの程度の応用ができるかということで進めている。和本については、かな文字が中心なので、ある程度精度は上げることができた。TOPPAN 側では 90%の精度があると言っているが、くずし方が変わると、そこまでは難しいという感じである。手書きの古文書については、そこまでの精度は難しい。決まった形で書かれているものについては概要を把握できる程度には読めると思っている。固有名詞や書状などになると、文字の候補を挙げてくれるくらいの参考程度のものである。今後、文字の解読を重ねることによって、精度は上げられると考えている。

【評議委員】

『古文書解読辞典』の例などを入力している感じなのか。

【京都市】

『古文書解読辞典』をベースにしているというよりは、史料集などで出されているものの

写真版を解読させて、翻刻とつきあわせて精度を上げている形である。

【京都市】

このアプリは、有料なのか。

【京都市】

有料である。ただし、1日30回までは、無料で使えるようである。

【京都市】

企業の収益事業に協力した形になると思うが、歴史資料館にとってのメリットは、あるのか。

【京都市】

引き続き協力関係を築きながら、将来的には、当館の古文書講座等の事業に、このアプリを使って協力してもらうなど、当館にとってプラスになるような活用方法、協力を TOPPAN 印刷に求めていくというように考えている。

【評議委員】

iPhone だけだったか。

【京都市】

Android も遅れて公開されたと聞いている。

【評議委員】

他にも全国的に施設が協力されているのか。

【京都市】

東京の幾つかの大学で協力されているのと、東京大学の先生にも監修をお願いしていると聞いている。

【評議委員】

アプリは、大学のホームページなどでも見ることはあるが、それとの差違というか、それよりも上回る機能があるといったものなのか。

【京都市】

機能的には変わらないと思われる。それをベースにアプリ化したということである。

【評議委員】

今、無料で見られるものは、TOPPAN のアプリに統合されていくということか。

【京都市】

そのような予定はないと思われる。

【評議委員】

開発の意義といったものがわかりにくい…。

【京都市】

TOPPAN としては、「ふみのはぜみ」というシステムをメインに開発していて、要望があってスマホアプリも作ったという感じである。

【評議委員】

昨年、大そうな文書目録を送っていただき、事業としても「4 資料の調査・収集・整理・保存・研究」として上がっているが、これからもそのような目録という形で作っていかれるのか、見通しがあれば教えてほしい。

【京都市】

当館から送付した資料は、「京都市内個人所有古文書調査報告書」である。こちらは、国の補助事業を活用し、4ヶ年で個人所有されている史料を調査して作っていたものである。

それと絡めて、当館の史料目録作成の進め方について、ご質問ということでよいか。

【評議委員】

それとこれとは、全く別なのか。

【京都市】

当館がまず取り組んでいるのが館蔵史料の目録作成であり、それとは別に、国の補助がついたので個人所有の文書の調査もさせていただき、報告書を作ったということになる。まずは館蔵史料の目録作成を進めていくことが重要だと考えている。

【評議委員】

館蔵史料に関しては、目録を刊行するのではなく、データで公開するなどの考えなのか。

【京都市】

とりあえずは、目録をデータで整えていき、将来的にはホームページなどを通して見ていただくような形にしていく取組になっていくと考えている。

【評議委員】

デジタルアーカイブのところで、自館での発信が難しいというように仰ったと思うが、それはどういう理由なのか。収蔵品の台帳や目録を整備されて、それを普通はホームページなどで発信するとか、印刷の目録にするという形だと思うが、最近は紙の本を出すのに予算獲得も難しいし、ホームページなどで発信するというのが比較的やりやすいという流れかと思うが…。

【京都市】

以前からもご指摘いただいていることではあるが、館独自のホームページの開設が費用的に難しいという状況である。他の機関のホームページに載せていただくようなことも含めながら、取り組んでいきたいと思っている。

【評議委員】

今の話に関連して、目録や画像データをホームページ上であったり、アーカイブ的なもので発信することはいろいろなところでもやっていることである。私も個人的にそういったものを見て勉強させてもらって、活用する上での利便性というのは高いのだが、現在は予算的な部分で難しいということだが、ゆくゆく予算の獲得であったり、ホームページの開設のあかつきには、どういう風な形での公開や利用というものを想定しているか、話していただけるか。

【京都市】

とりあえず現在は目録作成に専念している状況である。ホームページで画像などをあげている自治体の話なども聞きながら参考にさせていただいている状況である。

【京都市】

いろいろな自治体のデジタルアーカイブを見たり、担当の方にお話を伺ったりしながら、京都市として、どのようなデジタルアーカイブを作っていくのがいいのか、歴史資料単独するのか、公文書や行政資料も含めてなのか、どのような形で発信していくのか検討を進めながら、必要な予算措置や補助金が可能であるのか、どのような見せ方ができるか、いくつか選択肢を調査しながら、それに今回の目録作成や、それに伴う画像データの作成を結びつけるような形で、全体的な見せ方と資料整理・画像データの作成をリンクさせるような形で道筋を考えたいと思っている。

【評議委員】

この議題というのは、何年も前から続いており、デジタル化されないと折角の資料が公開されていないというのは本当にもったいない。京都市文化財保護課としては、予算的な部分など、ホームページの立上げの予定とか取組などについて、どのように考えられているのか。

【京都市】

文化財保護課としても、歴史資料館の取組の充実というのは重要な課題だと認識している。直近の状況で言えば、京都市の財政が非常に厳しいということで、令和3年から5年間を行財政改革期間と位置付けて、かなり大幅な予算削減、人員削減が計画的に行われたところである。その期間は、なんとか既存事業を守るので精一杯なところがあったが、それを乗り越えて、また市長も変わり、これから攻めていかないといけないタイミングかと思っている。今後の予算編成方針は、まだ示されるタイミングではないが、歴史資料館のこともそうだが、京都市の文化財の保護というものの優先順位を挙げていけるように、担当課として、しっかりと訴えていきたいと思っている。

【評議委員】

最近の土日だったと思うが、落款(花押)の缶バッジを親子で作るということをされたと思うが、子供たちは、どの程度興味があったのか教えていただけたらと思う。

【京都市】

3月24日の日曜日に子供向けのワークショップ「花押をつくろう」を実施し、午前と午後の2回に分けて、午前が10組23人、午後が6組15人、合計で16組38人に参加いただいた。

【京都市】

ワークショップの件で付け加えると、おそらく子供たちが積極的に参加したいという形で参加いただいていたようである。自分で調べて花押を作っている様子であった。楽しかったという感想も多くいただいているので、手応えはあったと思っている。今後、それを来館

につなげられればと思っている。

【評議委員】

当方もワークショップをいろいろ開催しているが、ワークショップの要請が多くあり、興味が非常に高いという印象がある。また、外国人旅行者について、有料でも旅を楽しむ方が多いと聞いているので、その辺に対しても発信していかれて、外国人向けの歴史資料館ならではのイベントみたいなことを考えていかれると、準備も言葉の問題も大変だが、ボランティアなども上手に巻き込んで、活性化されてはいいかと思う。せっかくいい場所にあるので、海外からのお客さんも多い昨今なので…。今までのワークショップで外国人の参加というものは、どんな感じだったのか。

【京都市】

外国人の参加というのは、なかった。

【評議委員】

ワークショップの情報をホテルに掲示するとか、こういうこともホームページだと思うが、旅行者にアピールすることも大事かと思われる。旅行者がそういうことをプランの中に組み入れてくれるということもあるかと思う。

【京都市】

貴重なご意見にお礼を申し上げます。参考にして検討していきたいと思う。

【評議委員】

たくさんの展示と様々な講座で、バランスよくされている。京都の資料ということで、一つ一つが多くの人に遡及するというか、注目を集める素晴らしい内容のものが揃っている充実したラインナップだと思われる。講座などで参加費を取っているのは、比較的最近のことなのか。お金をとって、多くの人が来られている。一方で、展示は無料でされている。それぞれ財政当局から、どのように評価されているのか。また、歴史資料館としては、どのような意図で、このように有料と無料で分けているのか聞きたい。

【京都市】

有料化の問題は、財政的な観点で有料化できないかという議論が全庁的にあった。歴史資料館についても、一般的な博物館でも入場料を取っているので、そういうことも考えていけないかという話があった。その中で、歴史資料館の物理的な構造の問題や来館者の動線の問題で、展示をご覧になる方と歴史調査にいらっしゃる方の動線が一緒になってしまうという問題がある。限られたスタッフで入場料をいただきながら管理していくことが難しいということがある。では、他に何かできないかということで、財政当局からも議会からも議論があり、図録の有料化を実施した。これは儲けるというよりは価値をつける、内容を充実させるということである。その他、講演会も有料でやってみようということで実施している。これに対して財政当局から評価をもらっているかということ、なかなかそこまでの声が届かないのは事実である。ただ、もっと収入を上げるとか、やはり入場料を取ったほうがいいのではといった議論には至っていないので、一定の評価はもらっていると考えている。

【評議委員】

展示の資料(図録)は充実しており、以前は無料であったことが驚きである。対価としてお金を取ることは普通というか、受け入れられることだと思う。古文書講座も他のところと比較しても、高くない費用で内容も変わらないレベルで受けられるので、おかしいことではないと思う。それが正しく評価されて、資料館の機能の充実などに予算が割かれることになればいいと考える。

【京都市】

おっしゃるように予算を確保しようとする評価をされないといけないので、ひとつの評価軸として、来館者数だけではなくて、収入も得ているということもあれば、財政当局からの評価も得やすくなると思うので、引き続き努力していきたいと思う。単価についても、今のままでいいかというのは別な話だと思っている。外国人観光客との差別化なども含めて、今後もブラッシュアップしていけば、予算的な面で評価ももらえるのではと思うので、引き続き努力していきたいと考える。

【評議委員】

もうひとつ、歴史的公文書の調査についてだが、どのような基準で選んで、どのような方針でやっているのかということと、明治以来の公文書の整理、受入、保存がどのようになっているのか教えてほしい。

【京都市】

公文書の所管については、京都市では、公文書館ではなく、歴史資料館が一部機能を担い、半分以上の機能を情報公開コーナー部署が担っていて、公開の窓口になっている。保存期限が経過した公文書は、マイクロフィルム化にして、原本は廃棄する方針なのだが、廃棄せずに保存が必要な公文書は、歴史的公文書として指定して保存している。この業務を歴史資料館が担当しており、毎年、廃棄される公文書のリストがあがってくるので、それをチェックして、原本を残さないといけないものを原課と相談して指定するということになる。なお、未だ歴史的公文書に指定されていない公文書もあり、順次、指定の業務を行っている。今後、デジタルデータも歴史的公文書の対象になっていくので、今までの方針でいいのか、考えていきたいと考えている。

【評議委員】

指定になるようなものが歴史的公文書として歴史資料館に来て、そうでないものは公開コーナーに保存されているということなのか。

【京都市】

永年保存が必要と判断した文書はマイクロフィルム化にするのだが、マイクロフィルムになると原本は廃棄するのが基本ルールである。ただ、文化財としても意味があるというものがあるので、紙媒体でも保存する必要があるものを歴史的公文書として歴史資料館が指定している。指定しなかったものは廃棄されてしまうことになる。

【評議委員】

それは毎年廃棄のリストが必ず回ってくるシステムになっていて、目が通って、ピックアップされるというシステムになっているという理解でよいのか。

【京都市】

当該公文書の所管部署から、歴史的価値があるので残したほうがいいのではと相談を受ける場合もある。全般的には、当館が主体的に、リストを見てチェックをかけているという流れである。

(5) 令和6年度事業計画案、運営予算について、質疑

【評議委員】

事業計画や予算の話から逸れるのだが、令和4年に博物館法が改正され、登録や指定など施設に関して選択するように言われているらしいのだが、そういった法改正への館としての考えがあれば教えてほしい。

【京都市】

博物館法が令和4年に改正され、5年から施行ということで、登録博物館と相当する指定施設と博物館類似施設の三つに分類されたところである。登録博物館については、設置者による要件が撤廃され、地方公共団体に加えて、法人が追加された。登録博物館になれば、固定資産税の非課税など税制上のメリットが言われている。当館は京都市が建てているものなので該当しないが、登録博物館になれば、国庫補助金の活用ができると聞いているので、可能であれば登録博物館を目指していきたいと考えている。一番の問題は、館蔵資料の目録化が要件になっているので、まずはそれを進めていかなければならないと考えている。

【京都市】

補足すると、小規模な館なので、マンパワーの問題などで徐々にやっていかざるを得ないということがある。先ほど予算の話もあったが、行財政改革期間が終わっても今の予算規模が基準となるので、すぐに予算が付くということではない。限られた予算の中でやっていかざるを得ないということなので、登録博物館を目指すということでも徐々に積み上げていかなければならない状況にあると思っている。ちょうど先日、文化庁で博物館の部会があり、次年度からは博物館の機能強化に関するワーキングということで、運営の在り方や設置などの望ましい基準を検討していくということのようである。そういうことも見ながら目指すべき方向も考えていかなければならないと思っている。そういう意味で、いつまでにこうなりますということは言えない状況だと思っている。ただ、やるべきことは、目録のことや、博物館法改正によってデジタル化ということも求められてきているので、そういったところもしっかりとやっていかないといけないという中で、最終的に登録博物館をどこまで目指していくかということを考えていかないといけないと思っている。基盤的なところを整備していきたい、時間がかかっても着実にやっていきたい、ということが今の中期的、短期的な方向性になると思っている。

【評議委員】

必ずしも登録がいいともなんとも判断しかねるが、要は資料館単独で考えていくのか、京

都市全体で考えていくのか、見通しはあるのか。

【京都市】

建物自体の老朽化があるので、てこ入れをしていかないといけないという中で、今のまま使っていくのか、選択肢として違う形を作っていくのか、いろいろあると思うので、今後の議論かと思っている。ただ、現状では、館蔵品で展示をしていかないといけないということで限界がある。他から重要文化財を借りてきて展示をするということができれば、もう少し展示の企画も広がっていくと思う。今はそれがなかなか難しいということがある。市としてどう考えていくかということになるが、あくまで展示のことだけで言うと、今の館蔵品でしっかり展示をしていくという選択肢もあるし、他の施設のように、いろいろなところから資料を借りながら幅広い展示をするという機能をもたせていくのか、今後の議論だと思うが、そこまで庁内での議論が行き着いていないというのが事実である。

【評議委員】

市内の場合は、どうしても小規模館、資料館もそうであり、学校博物館、マンガミュージアム、それから考古資料館もあるが、それぞれ小振りで小粒な施設なので、それなりのまとまりがあってもよいかなという気もする。難しい問題はあると思うが…。法律が変わって、そのあたりがどうなっていくかということを知りたいということである。

【評議委員】

平安建都 1200 年の頃から、京都市の歴史博物館構想というのがあり、そういうのができるのかと思っていたが、そうっていないという感じだと思う。他の委員の方がおっしゃったように、公立館だけでもいくつかあり、大きな博物館を建てるのが難しかったとしても、デジタルアーカイブの世界でデジタル的に京都市の大きな博物館として打ち出すということは考えられると思われる。行政だと、デジタルがつけば、お金も付くという感じがあるので、それが京都市では難しいというのが不思議な感じがする。デジタル的に統合して、大きなものをバーチャルに作っておいて、実際のものは小さいけれども、それぞれの施設で見られるというようなことは、どのように考えているのか。

【京都市】

おっしゃるように京都市内には 200 以上の博物館や美術館が、大規模館・小規模館を含めてある。それは全国と比べても一つの特徴だと思う。そこをどのように活用していくのか、デジタルの活用の仕方もある。一方で、現場では、他の都市には大きな博物館がある…、公立でもある…、そのくらいのものであれば、もっと活動できるという思いもある。これだけの施設があるので、行政としては、それぞれの役割をどうするか、200 以上ある施設の中で歴史資料館は、どういう役割があるのか、どのような役割のある新たな博物館が必要なのか、という議論もしていかないといけないと思っている。どのようなやり方、デジタルならデジタルの特徴もあるので、活用の仕方を考えないといけない。市の中で、デジタルだったら比較的金は付くのかもしれないが、博物館の構想として、どのようにデジタルを活用していくかというところから議論をしていかないといけないと思っている。メタバースとい

うものもあるが、うまく活用されていない部分もあるので、京都の特徴を得た取り入れ方というは、今後検討していかなければならないと考えている。

【評議委員】

意見というか、要望や感想になってしまうが、個人的に楽しみにしているのが第二展示室の展示である。もちろん企画展などで歴史的に価値のある資料を有意義に活用されて、魅力ある展示をされているが、令和5年度の第2展示室の展示でも、企業や財団と連携しながらの展示であったり、高校生のパネル展示の場としても提供されていて、企画展とは違う魅力を発信されていると思う。令和6年度も魅力ある特別展などを企画されているが、第2展示室でも魅力ある展示をしていただいて、いろいろなところとの連携などで、資料館の役割をどのように位置づけるかや魅力の発信の場として、楽しみにしている。

【京都市】

もともと映像展示室だったところを第二展示室としてやっているのだが、展示ケースがないので、なかなか使い方が難しいのだが、できるだけ工夫を凝らして、魅力ある展示ができるようにしていきたいと思う。

【評議委員】

貴重資料の閲覧や二階での図書や古文書の紙焼きを見に来られる方など、こうした事は歴史資料館の特徴的なところだと思う。展示の部分もありながら、閲覧者や質問にも対応されるのは、館の職員の御苦労は、すごいものがあると思っている。オープンな形で、誰でも開館時間に行ってアクセスできるというのは館の特徴だと思う。館員の負担は、かなりすごいのではないかと想像する。京都なので、いろいろな質問や相談は多いと思う。増減は出しているが、最近の状況で以前と違う部分があるのかどうかということと、その部分について、館の評価という点で結びついてくれればいいと思っている。

【京都市】

ここ数年で言えば、コロナ禍があったので、数字にも出ているが、閲覧者は大きく減っている。電話での相談は、それほど大きくは減っていない。十数年前くらいには、現在よりも電話の件数は多かったのだが、インターネットの普及や様々な情報媒体の普及により、ごく簡単な質問などは、そういったところで解決ができていようで、その部分は減っている感じがする。逆にインターネットで調べられないような質問が集中している感じがする。なかなかすぐに調べられないところを資料館に質問するという点で、意義があるものと思っている。

【評議委員】

お礼を申し上げる。そういったところが館の評価に結びついていけばよいと考える。

【評議委員】

6年度の特別展では、二条城から二條離宮の展示を楽しみにしている。二条城はインバウンドも含めて、すごいお客様であり、そういったお客様に歴史資料館の展示に回ってもらうような仕掛けのようなことをしないと、もったいないと思われる。そういったこともアイデ

アを考えていけばよいと思う。実際に京都御所が隣にあるので、資料館から京都御苑まで含めたこと、今も紫式部の展示をして、皆様に興味があると思われるので、案内を広げるなどして考えていけばよいと考える。

【京都市】

二条城の展示については、今も二条城と打合せを重ねており、できるだけ向こうのお客様をこちらにも来てもらえるように、できるだけ多くのお客様を呼べるように知恵を絞って参りたいと思っている。また、京都御所や他の博物館等、二条城以外の所とも連携した取組も、単独で行うより有効だと思うので、そういった取組も引き続き考えていきたいと考える。

(6)事務連絡

評議委員の任期について説明

(7)閉会あいさつ